

三宅 7月28日に発生した『令和8年熊本地震』では、本市にも最大震度6弱の揺れが襲いました。10年前の地震も踏まえた自治会の対応が頼りになった人も多かったのではないのでしょうか。

松崎 私の自治会では、公民館を避難所として開設しました。その



相次ぐ災害に直面 顔の見える関係の大切さ

松崎 普段から若い世代との交流を大切にしていて、秋祭りやどんななどの行事では積極的に協力してもらっています。世代を超えて関わることは、役員の負担軽減にもつながっています。

川畑 私の自治会は現役世代が多く、歴代の自治会長も男性ばかりでした。私が自治会長を務めることで「誰でもなれる」ことを皆さんに知ってもらいたいと思っています。世代や性別に関係なく、さまざまな人が参加できることが大切ですね。

川畑 私は今回の地震が発生したときは自宅に1人でいました。自分で自分の身を守るということにとても不安な気持ちになりました。その後、自治会内の1人世帯を巡回すると、皆さん同じような不安を感じていたことが分かりました。安否確認をしたことを喜んでくださったんです。普段から『顔の見える関係』が築かれていることで、非常時にも「ひとりじゃない」と感じられるのではないかと思います。このつながりをこれからもなくさないでほしいなと思っています。



結果、自治会の人々が数人避難してきました。非常時に頼れるということは、自治会の大きなメリットだと思っていますし、近くに住む人たち同士が助け合う『共助』の大切さを改めて感じたところでした。

黒田 比較的若い世代の転入が多く、自治会に入っていない人もいます。加入するかどうか判断するときに、メリット・デメリットで考えがちですが、見守り活動やごみステーションの管理など、自治会が暮らしを支えていることはたくさんあります。そうした活動を広く知ってもらうことが大切だと思います。

川畑 こどもたちに「この地域に



これからの自治会のカタチ

三宅 地域に欠かせない存在である自治会の加入率が下がっていますが、どうすればいいのか、どんな自治会になれば良いと思いますか。

大島 私の区では、集まって活動する機会が少ないので、年に1、2回でも顔を合わせて親睦を深めることが大切だと思います。顔を知っているだけでなく、困ったときに頼り合える関係を築いていきたいですね。



※自治会のことを区という地域もあります

松崎 若者の集いや敬老会など、さまざまな行事がありますが、今の酷暑を踏まえ夏祭りを秋祭りに変えました。時代や地域の要望に合わせた見直し、役員の負担軽減なども通じて、本市の自治会活動をこれからも継続・発展させたいと思います。



住み続けたい」と思ってもらえるとうれしいです。そのきっかけとして日頃の交流は大事ですし、自治会の果たす役割は大きいと思います。

河野 私の区では、楽しい催しを増やすことで、区の魅力を知ること、きっかけを増やしていきたいと思っています。

自治会特集

vol. 2

“もしも”のときの安心をつくる 地域みんなの“いつも”のつながり



市制施行20年、2度の地震を経験した今、 身近な存在の自治会について語りました

(7月30日市役所で開催)



自治会活動の意義と 時代に応じた工夫とは

三宅 松崎さんと河野さんが自治会長を務めるきっかけは何でしたか。

松崎 前任の自治会長から「やってみないか」と誘われたことがきっかけです。最初は、自分には務まらないと思い断りましたが、再び声が掛かり引き受けました。やってみると苦労もありますが皆さんに協力してもらい、楽しく活動しています。

河野 約30年前に東須屋区へ転入したとき、当時の区長が知り合いでしたので区の仕事を手伝い始めました。その後、役員を経て区長になりました。区の人たちと顔を合わせる機会が増え、顔なじみになれるのが楽しいですね。皆さんに支えてもらいながら活動しています。

三宅 大島さん、黒田さんは役員になってみてどうですか。



大島 「大変そう」というイメージ

があったのですが、通学路に立つと、こどもたちが「おはようございます」「ありがと」「ごいいます」と声をかけてくれます。そうした姿に、やりがいを感じます。一方で仕事と役員の両立は難しく、朝はどうしても慌ただしくなりますね。

黒田 達成感を得ながら活動できましたが、仕事終わりや休日作業することもあり、プライベートとの両立は難しかったです。役職を増やしたり、同じ役職を2人で担当したりするなど、負担を減らす工夫があると役員もやりやすいと思います。

三宅 率直な意見ですね。工夫している自治会もありますよね。



河野 そうですね。私の区では各役職の負担を軽減するため、『副』の役を置きました。その結果、若い世代も積極的に役員として参加しています。子ども会では会費を集めずに運営していますので、子育て世代も参加しやすいのではないかと感じています。